

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） ＜語学教育研究所＞ 講演会のアンケート調査については、まだ案文作成の段階にとどまっており、今後のアンケート調査の実施を予定している。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部、語学教育研究所
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	＜外国語学部＞ 中国語学科、英語学科および日本語学科から構成される外国語学部は、「専攻言語に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材を養成する」ことを理念として、1972（昭和 47）年に創設された。 このような理念に基づいて、学部および学科の教育研究上の目的は、次のように学則に定められている（A1-1 第 2 条の 2 第 3 号）。 外国語学部は言語に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有し、専攻する言語およびその言語が使用される地域の文化、社会、歴史等の教育・研究を通じて、国際的な幅広い知識と教養を身につけた外国語のスペシャリストを育成することを目的とする。 外国語学部中国語学科は、中国語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。 外国語学部英語学科は、英語学に加えてドイツ語学、フランス語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。 外国語学部日本語学科は、日本語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。 ＜語学教育研究所＞ 語学教育研究所の理念・目的は、言語学・外国語教育・文学・文化等の多彩な分野の専門家を擁する外国語学部の特色を生かし、国際的に活躍できる人材の育成、及び学問の発展に貢献することである。この理念・目的の実現のためには、今までの取り組みを継続して成果を挙げている。研究の成果物としては、2つの学術誌『語学教育研究論叢』34 号及び『語学教育フォーラム』32 号を刊行し、大東文化大学機関リポジトリを通じて広く国内外に配信した。教育・啓蒙活動においては、5 言語分野（中国語・英語・日本語・フランス語・ドイツ語）の講演会を 5 回開催した。講演会におけるアンケートは講演会実施後、都合上実施できなかった。語学教育研究所の研究員の活動として、研究発表会を 4 回（8 人）実施した。また、本学の学習環境の充実やその学習資源の活用について、図書館、東松山英語分科会等、該当部署との連携を図り、取り組みを進めた。国際化への対応としては、中国をはじめとして客員研究員を受け入れた。客員研究員は、研究所研究員や外国語学部専任教員との共同研究を行い、研究成果は研究所の刊行物や国内外の専門学術誌等に掲載・公開している。
1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合

	合はその内容と結果を記述してください。 <外国語学部> 理念・目的の設定について。【×】 具体的事例： <語学教育研究所> 理念・目的の設定について。【×】 具体的事例：
1-2	<外国語学部> 外国語学部の教育研究上の目的は、学部ホームページに掲載して広く社会に公表するとともに、各学科のガイダンス、キャンパス見学会等で学生や受験生に周知を図っている。(A4-1-9、B1-6、B1-22 d2-表 1)。 <語学教育研究所> 語学教育研究所の理念・目的の周知・共有については、教職員・学生にはホームページや講演会等の具体的な活動を通して行っている。また、年間の語学教育活動を記載した『語学教育研究所報』を教職員に配布すると共に、ホームページ上でも公開して本研究所の活動内容の公開をしている。ホームページ上の「沿革と概要」については、2017年度から英文を掲載した。社会に向けては、ホームページを通じて行っている。本研究所の刊行物である『語学教育研究論叢』、『語学教育フォーラム』も大東文化大学機関リポジトリで広く公開し、学問分野の発展に寄与するために社会に向けて配信している。
1-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 <外国語学部> (1) 構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：履修の手引き『徑』に記載し、ガイダンス、新入生オリエンテーション等の機会に周知を図っている。 (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例： <語学教育研究所> (1) 構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【×】 具体的事例： (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：
1-3	<外国語学部> 学部の理念・教育研究上の目的の適切性は、年度ごとの自己点検・評価活動で定期的に検証している(B1-16)。また、カリキュラム改正の際にも、学部教務委員会、学部教授会等において検証を行っている。 2018年度、文学部に歴史文化学科が新設されることにより、文学部との学部再編の実施可能年度が2022年度に繰り下げられ、全学的な学部再編議論は一旦棚上げとなった。このため学部・学科の理念・教育研究上の目的についての検討、議論も推進力を欠いた状態に置かれている。 <語学教育研究所> 語学教育研究所の理念・目的の適切性の検証の責任主体・組織は、語学教育研究所の運営を司る運営委員会であり、学部附置研究所という位置づけから、議決については学部教授会において報告・承認を受ける仕組みになっており、これが守られている。
1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 <外国語学部> 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例： <語学教育研究所> 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	<語学教育研究所> 講演会に関するアンケート調査について実施準備を進め、今後のより充実した講演会の開催につなげる。
-----	---

1-2	<外国語学部> ・学部の理念・教育研究上の目的は 2013 年度の学則改正で規程化されたことにより、学部教授会における FD 活動等を通じて教員に周知を図り、学生に対しても履修の手引きや履修ガイダンス、基礎ゼミ（初年次教育）等で周知を徹底する。
1-3	<外国語学部> ・学部・学科再編の議論と関連させながら、学部の理念・教育研究上の目的について定期的に検証するシステムを構築する必要がある。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	<外国語学部> 1-3 ・学部再編の議論と関連させながら、まず上記の【改善すべき事項】に掲げられた各学科の現在の理念・目的について検証し、続いて今後定期的に検証するシステムを構築する。	・全学的な学部再編等が完了し、上記の【改善すべき事項】に掲げられた学部・学科の理念・教育研究上の目的について定期的に検証するシステムが構築されている。	→		B	C	
	<語学教育研究所> 1-1 本研究所の理念・目的に照らして、実際に活動が実施されているかどうか運営委員会及び研究部会において検討する。	本研究所が開催する講演会等で、聴衆者に対しアンケート調査を行い分析する。			C	S	
16 年度 目標	<外国語学部> 1-3 ・学部再編の議論と関連させながら、上記の【改善すべき事項】に掲げられた各学科の現在の理念・目的について検証を行う。	・全学的な学部再編等の議論の中で、学部・学科の理念・教育研究上の目的について各学科で議論がなされ、議論の結果が学部教授会で報告されている。			B		
	<外国語学部> 1-2 ・学部の理念・教育研究上の目的が学則で定められたので、学部教授会等で教員に周知を図り、学生に対しても履修の手引きやガイダンス等で周知する。	・学部の理念・目的を掲載した配布物 ・左のことが周知されている。			A		
	<語学教育研究所> 1-1 各種活動が本研究所の理念・目的に沿っているかを定期的に検証する。	平成 15 年度のアンケートを実施し、その結果を分析し、今後の適切な講演会等の企画・運営に役立てる。			C		
17 年度 目標	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) <外国語学部> 1-3 ・学部再編の議論と関連させながら、上記の【改善すべき事項】に掲げられた各学科の現在の理念・目的について検証を行う。 1-2 ・学部の理念・教育研究上の目的が学則で定められたので、学部教授会等で教員に周知を図り、学生に対しても履修の手引きやガイダンス等で周知する。	・学部内に設置された自己点検・評価委員会によって検証がなされ、学部教授会において報告が行われる。 ・学部の理念・目的を掲載した履修の手引き等の配布物、履修ガイダンス、初年時教育において周知を図る。 ・左のことが周知されている。				A	
	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) <語学教育研究所>					S	

1-1 今年度開催の講演会においてアンケートを実施する。	アンケート結果を分析して語研研究部会・運営委員会において報告し、今後の講演会のありかたを検討する。
------------------------------	---

--	--	--	--	--

IV 評価専門委員会所見

＜外国語学部＞ 1-2【現状】理念・目的が履修の手引き『徑』に記載され、ガイダンス、新入生オリエンテーション等の機会に周知が図られていることは、評価できます。 1-3【目標】17年度指標として、学部内に設置された自己点検・評価委員会によって検証がなされ、学部教授会において報告が行われることが記述され、理念・目的の検証に関する責任主体、手続き等がある程度明確になりつつあることは、評価できます。 ＜語学教育研究所＞ 1-1【現状】2つの学術誌における研究成果の公表、5言語分野の講演会の実施、研究員による研究発表会の実施、学習資源の活用、客員研究員との共同研究、成果の公表等は、(このシートに記述されていませんが)語学教育研究所の理念・目的にかなうものとして、大いに評価できます。

V 所見への対応

＜外国語学部＞ 1-3【目標】18年度に新たな理念・目標を公開するのに伴い、現在、各学科で協議、検討された案が学部教務委員会に示され、学部教授会での審議を経て後、学部内自己点検・評価委員会において最終案がまとめられる予定です。

VI 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A1-1 大東文化大学学則 B1-6 大学ホームページ（情報公開）http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html B1-16 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html B1-22 大学データ集 ＜大学基礎データ＞ d1-表1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2016年4月1日現在）
〔追加資料〕 A4-1-9 外国語学部 徑（履修の手引き）